

評価結果表（保育所版）

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。

1	I-1-(1)-①	評価
理念、基本方針が明文化され周知が図られている。		b
評価コメント	豊かに生きる力を育むことを理念とし、家庭や地域社会との連携を図り、保護者の協力の下に家庭養育の補完を行う事を方針としています。それはホームページで誰でも見られるようにしてあります。そして園見学や入園決定時に入園のしおりで表明し、重要事項説明書で説明したり、新年度にあらためて説明の機会を設けてあります。また行事では、その行事が理念や方針とどう結びついているかを説明し、気付きを促すようにしています。	

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。

2	I-2-(1)-①	評価
事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。		b
評価コメント	入園数が減る可能性に対して、財務の専門家によるコスト分析を毎月に行い適正規模の運営について財務の側面から検討しておられます。さらに地域自治体の乳幼児の人口動態を見据えたり、保育の見込み量を市の計画から把握して年度毎に分析を進めるなど園の経営に必要な分析や把握をして具体的に計画をつくり行動する拠りにされています。	

3	I-2-(1)-②	評価
経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。		a
評価コメント	本園の経営を維持するという課題の解消に向け、地域の入園希望の需給状況から本園以外にどのような事業展開があるかを模索する中で、地元の企業主導型園の運営を引き受け、隣接する地域に小規模園の開設などして具体的に事業を実現されています。地元地域との交流や地域連絡協議会への参加など様々な関係を通して、地域に必要とされる新たなサービスを把握し、提供実現の可否の検討も含め継続的な取り組みを行う等、地域の児童が減少している中で園の経営課題を明確、かつ、具体化され実現している取り組み姿が見られます。	

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。

4	I-3-(1)-①	評価
中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。		b
評価コメント	平成26年度から令和13年度までの期間で、年齢別の入園児童数の推移を見える化して定員規模を適正に推移させる計画になるようにされています。また、入園児童数を維持するため、魅力を持たせる目的での環境整備を具体的に計画されています。中期的な計画では地域が必要とする新たな福祉サービスの提供の検討も含め計画の策定に取り組んでおり、その取り組みについて具体的なビジョンをさらに可視化する必要があるとの認識があり、今後の取り組みを期待します。	

5	I-3-(1)-②	評価
中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。		b
評価コメント	単年度の計画は、修繕計画、整備計画、研修計画など中期計画を踏まえて前年度の運営自体の評価や開催行事等の評価反省から必要な内容を中心に計画が策定されていて、保護者へのアンケート結果も踏まえてその評価も行われています。今後は計画の中で進捗の度合いなど数値化できる項目も入れながら、目標をより具体的に定めて評価が可能な計画となることを期待します。	

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。

6	I-3-(2)-①	評価
事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。		b
評価コメント	事業計画は、全体的な計画に基づき策定し、また園庭も含め環境整備と合わせて日頃の保育活動記録などから職員の感想を聴取したり、また前年度の職員の自己評価や保護者アンケートなどから年度計画を編成し、その時に職員には会議などで提案を出してもらい計画に反映するようにして内容を共有し理解を促すようにしています。	

7	I-3-(2)-②	評価
事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。		b
評価コメント	単年度の事業計画は紙面にして保護者に配布してあります。園生活に必要な内容は網羅して計画してあり、一部はホームページにも掲載してあります。さらに年度行事は日程と内容、食育活動について毎月示してあります。今後は事業計画において前年度の評価や保護者の意見を参考に見直した内容について、より理解が進むよう周知することを期待します。	

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

8	I-4-(1)-①	評価
保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。		b
評価コメント	質の向上は、園内研修・検討会に加え、処遇改善計画についてキャリアパス確認シートにより具体的な到達目標を示し、研修が設定してあります。また、保育者等が自己評価を行ない上司と確認する等、組織的な取組が行われています。また連携施設の園長会で気づきを共有しています。今後は上司と取組むだけでなく保育者同士横のつながりで取り組んでいかれることを期待します。	

9	I-4-(1)-②	評価
評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。		b
評価コメント	評価した後の課題抽出について職員からの発言を大切にしながら課題を明確にして共有するための会議を開催して、職員が主体的に課題に向かう意欲が持てるようにしています。今後は共有した課題の解消に向けチームで取り組むことや単年度の事業計画の中で再評価するなどを明記することでより継続した取組みとなることが期待されます。	

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。

10	II-1-(1)-①	評価
施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。		b
評価コメント	施設長が率先して経営の舵を取り、目標に向け行動する姿が見られました。その中で文書による説明だけでなく、写真やイラスト、数値化した表などを用いて、簡便に容易に施設長の意図を正しく理解を促すための工夫を施し表明しています。また、その範囲は、全体的計画に沿って網羅されて示されており、職員の立場で理解して業務を行えるように配慮しています。	

11	II-1-(1)-②	評価
遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。		b
評価コメント	施設長は、法令等の遵守について取引事業者や行政等の利害関係者と不正な関係が起きない事を注意しておられます。園長会に参加したり行政からの通知や業界紙に目を通す等、必要な情報を入手しています。職員には、児童の人権擁護の遵守が要求される事項を書面に網羅して説明し、誓約書を交わし意識付けをして、法令遵守への姿勢を示し、職員が施設長に倣い自覚するようにしています。	

II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。

12	II-1-(2)-①	評価
保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。		b
評価コメント	保育の質は、「こども真ん中」を意識し、子ども視線からの発言を拾い保育が展開できるようにしている。そのため施設長が発育・発達にはその分野の専門家が提供する図表を用意し、成長や発達さらにはその見通しが見えるようにして確認も行うようにしています。また保育計画の柔軟な変更を行ってもよいことを可能にして、さらに職員の声も積極的に出してもらい、やる気を引き出すこと、次へのステップ、改善をしながら組織を動かすための指導力を発揮することに努めています。なお資質向上の取り組みでは経験年数や階層別の研修計画を策定しキャリアアップ研修も含め質の向上のための自己研鑽を促しています。	

13	II-1-(2)-②	評価
経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。		b
評価コメント	保育現場の就労環境に必要な体制作りを重点的に取り組んでおられます。特に保育業界や他の事業所からの情報収集を積極的に行い運営の改善につなげています。例えば業務を明確にするため単年度の担当割表を明示したり、複数担任の仕組みを導入して主担任の負担を軽減するため、現場の声を聴き体制を構築し、ICTによる登園システムを採用するなど率先して取組む姿が見られました。	

II-2 福祉人材の確保・育成

II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

14	II-2-(1)-①	評価
必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。		b
評価コメント	人材確保では、基本的に人材の定着に重点を置いて取り組んでいます。定着では、労働環境や福利厚生そして賃金も含めた処遇の改善に取組み、また個人面談から本人の課題解決や目標設定を把握し支援するようにしています。ただ、「若手保育者の確保後の定着について改善の余地がある」と認識されており、今後の取組みに期待します。	

15	Ⅱ-2-(1)-②	評価
総合的な人事管理が行われている。		b
評価コメント	一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価してあります。採用時の説明や新年度の辞令交付時に説明するようにしています。キャリアパスの仕組みも作成し、面談の機会に職務や業務の説明を行い、本人の意見も聴きながら対応しておられます。さらに勤続年数に応じて保育団体で表彰される制度を活用して定着につながる意欲が持てるように道筋をつくり、実際職場から表彰者が出ることで定着への関心が持てるよう工夫されています。	

Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

16	Ⅱ-2-(2)-①	評価
職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。		b
評価コメント	職員の勤務状況や有給休暇の取得管理は、施設長と副施設長が把握し、個別面談等で意見や要望を聴く機会を作っておられます。その中で、特に時間休を採用して体調不良や小事に休暇を取得しやすしたりするなど周囲への負担にも配慮しながら、休みが取りやすいよう工夫されています。日常勤務では業務と休憩を明確に分けるために、保育室から離れた場所に休憩室を用意してあります。個別の相談等は担当を置いて話しやすしたり、さらに内部通報の仕組みでは、必要により外部の窓口を設け、躊躇なく意見を出して、安心して就労できる環境を整えています。	

Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

17	Ⅱ-2-(3)-①	評価
職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。		b
評価コメント	期待する職員像として、育ててもらおう、ではなく、学びたいと思える環境を提供し、明るく子ども達の声を拾い子どもの成長を共に共感し、自分も楽しむという姿勢が持てるようにしています。そしてそれが実現できるよう、また、本人が意欲を持ったり、悩んだりする時にいつでも面談できる環境を用意してあります。今後は職員が自己評価の中で確認ができる仕組みづくりに期待します。	

18	Ⅱ-2-(3)-②	評価
職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。		b
評価コメント	階層別研修を受講できる団体の研修に参加できるようにしたり、キャリアアップ研修を受講する機会や園内研修を計画的に提供するなど、学びたい、成長したという思いに応えるための計画を策定し、職員に説明を行い実施するようにしています。実施した研修については記録を取り把握し、次のステップに活かすための方策を検討しより良い計画となるように見直しをしています。	

19	Ⅱ-2-(3)-③	評価
職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。		b
評価コメント	学びたい、成長したという思いに応えるため、階層別研修、キャリアアップ研修、園内研修を計画し、職員に説明し実施しています。受講した研修については記録を取り把握し、次のステップに活かすための方策を検討し、より良い計画となるように見直しをしています。今後は、研修の成果や技術水準の向上等を、実戦でどのように活かしているかについて施設長と職員の間で確認ができるような取り組みを期待します。	

II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

20	II-2-(4)-①	評価
実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。		b
評価コメント	実習生やボランティアの受入れは、マニュアルを作成し実習の養成校の意向に沿いながら実習生本人の希望も踏まえて体制を整備し、育成につながるように取組んでいます。夏祭りの行事など実習前または実習後にある行事に参加することで園に慣れてもらい、気持ちよく取組んでもらえる雰囲気づくりを行っています。今後は実習指導者の専門性を習得し、より良い取組となることを目指しています。	

II-3 運営の透明性の確保

II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

21	II-3-(1)-①	評価
運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。		b
評価コメント	法人（こども園）の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示して説明し、法人（こども園）の存在意義や役割を明確にするように努めています。またWAMネットで財務情報を公開したり、SNSを活用して日常の取り組みを情報公開するなど、運営の透明性を確保するための取り組みをしています。	

22	II-3-(1)-②	評価
公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		b
評価コメント	経営・運営の公正さを確認するため、公認会計士に依頼して内部統制の取組を行っています。財務状況については月毎に会計処理を行った後に財務分析を行い、担当者からの意見や助言を得ています。社会保険労務士事務所とも契約し、適切な労務管理を行うようにするなど、外部からの専門家を招聘して適切な管理を行う取組を確保するようにしています。	

II-4 地域との交流、地域貢献

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。

23	II-4-(1)-①	評価
子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。		b
評価コメント	地域との関係を築くうえで、基本的な考え方を文書化し、保護者や地域の人たちが集う施設等に掲示しています。そして地元商工会をはじめ地域のイベントに積極的に参加し、触れ合う機会を持つようになっています。農家さんとの繋がりを持ち、園児に稲作を経験させたり、公立大学の助力を得て「ひむかかた」に取組み、地元に関心を持たせる工夫をしています。	

24	II-4-(1)-②	評価
ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。		b
評価コメント	ボランティア等の活動の場として、夏祭りや発表会など園の行事に関わるような機会を提供しています。マニュアルに沿って、学校の職場体験など受入れをしたり、卒園児や学生なども希望があれば受入れられています。今後、ボランティア活動の専門研修を受講し、受入れに際しての参加者の心持ちを育みながら、緊密な関係を築くことを企図しています。課題として、ボランティア受け入れについての専門的研修を受講する機会を模索中とのこと。研修以外の方法で課題を解決できないかも含めて検討をお願いします。	

Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。

25	Ⅱ-4-(2)-①	評価
保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。		a
評価コメント	商工会、社会福祉協議会、民生委員などとの連絡や意見交換、協議の場を設け、経済的に支援を必要とする家庭を把握し、相談を受けたり、要保護児童対策連絡協議会に出席して、児童相談所や地域保健センターと連携して子どもや親の支援に関わるようにしています。夏祭りなど、園の行事開催では地元団体の後援や協力を得て開催し、園が実施できる取り組みを直接、感じてもらうようなつながりを持つようにしています。また町の青年部が主催する祭りなどに協力し、若い世代との接点を持ちながら、子育てについて身近な施設であるとの認識や浸透に向け取り組んでいます。また子どもたちの交流だけでなく、園児の父親同士の交流や園の取り組みなどに関わってもらったり、世代間を超えた交流の機会を演出するなど、様々な取り組みを行っています。	

Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

26	Ⅱ-4-(3)-①	評価
地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。		b
評価コメント	子どもに関する様々な地域会議に参加し、情報を収集して貢献できることがないかを模索しています。その中でこども食堂（地域食堂）の開設等、新たなニーズがあるか、園でできないか等、検討しています。また子育ての相談事業について、機会や開催場所を増やすなど子育て支援拠点としてのさらなる充実を考えておられ、今後の取り組みを期待します。	

27	Ⅱ-4-(3)-②	評価
地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。		a
評価コメント	みやざき安心セーフティネット事業に参加し、園の相談員が必要な福祉制度やサービスを提案することに取り組んでおり、保護者だけでなく子育て支援を必要とする家庭の集まりを開いたり、地域で行うよう園の法人役員や民生委員にも周知しています。高齢者施設へ慰問し、園児との世代間交流を通して元気を与えられるような取り組みをしています。地域の避難所として、事業継続計画や避難確保計画を作成する中で行政と連携して地域に貢献したいと考えておられます。	

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。

28	Ⅲ-1-(1)-①	評価
子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。		b
評価コメント	理念や基本方針について、新年度に連携施設合同の勉強会を開催しています。昨年度は、DVについての外部講師を招いて開催したり、各園の発表を行い、意見交換会を行っています。人権については、全国保育協会がだしている「人権養護のためのセルフチェック」を全職員行い、不適切保育とは何か、職員の意識を確認し意見を出し合い、改善に努めています。不適切保育については、常に会議に出し確認しています。性差への先入観についても、意見を出し合ったり、研修で「性差別の発言は無いか」についても学び、子ども、保護者、職員、外部講師等にも周知するよう努力されています。	

29	Ⅲ-1-(1)-②	評価
子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。		b
評価コメント	個人情報などのプライバシーに関することは規程を作成し、職員が遵守するように促しています。日常保育では保護者との立ち話の場面や外部からの訪問者に留意したり、外部に情報が漏れないよう現職だけでなく退職後も含め守秘義務などを求めています。今後は、生活場面での配慮などについて規程やマニュアルに入れて、都度、確認したり、新人などにも安易に理解できるような工夫の検討を期待します。	

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

30	Ⅲ-1-(2)-①	評価
利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。		b
評価コメント	入園のしおりやホームページは、イラストや図、写真を多用し、説明内容がわかりやすくなるように工夫してあります。見学の時間は、できるだけ希望に沿うように配慮し、丁寧な説明を心がけています。見学後には、感想を聞き、よりわかりやすい説明ができるように努力しています。	

31	Ⅲ-1-(2)-②	評価
保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。		b
評価コメント	保育の開始や利用内容の変更については、市の認定区分を踏まえた利用時間についてや、配慮が必要な場合には栄養士、外部の専門機関との連携や支援などについても説明をするようにしています。保育料以外の利用料が変わる場合は、早めの周知を行うなど丁寧に対応するようにしています。	

32	Ⅲ-1-(2)-③	評価
保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。		b
評価コメント	卒園後については、学童説明会で相談できるように周知し、継続して園との関係がつながるように対応している。今後は、転園等の事案について、園での生活が次の園で参考になるように保護者に書面等で生活状況を交付するなどして保護者が次の園を利用するにあたり安心して利用開始できるような配慮について検討をお願いします。	

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。

33	Ⅲ-1-(3)-①	評価
利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。		b
評価コメント	「子ども中心の保育」を提供するために、毎朝、子ども会議を開催し、子ども同士の対話を通して、相手の表情や気持ちを受けとめるような機会を設けています。保育者が子どもの気持ちを感じ心情を汲み取り、次の保育の中で子どもの意欲などにつながるように配慮しています。保護者には個別面談を保護者の希望に沿って機会を設け、要望・希望などを聞き取り、活動の中での配慮に入れるなどして行うようにしています。面談の内容については園長だけでなく担任にも事情を把握してもらい、個別の指導計画などにも配慮しています。保護者の全体的な対応では、行事などの機会を通してアンケートを取り、意見や要望を集め、職員会議などで情報共有し、次の行事や保育につなげるようにしています。	

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

34	Ⅲ-1-(4)-①	評価
苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。		b
評価コメント	入園のしおりと重要事項説明で、利用についての解説と受付から解決までの流れを図で記載し、わかりやすく説明しています。目安箱を玄関に置いて気軽に意見を言えるようにしています。所定の書類にまとめて園長や職員が確認し、回答を保護者に知らせる仕組みも整備されています。市役所から利用者からの要望などの連絡があった場合には記録を取り協議をして市に報告できるようにしています。必要に応じて保護者全体に知らせています。	

35	Ⅲ-1-(4)-②	評価
保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。		b
評価コメント	保護者から職員や園に話しかけやすいように日常的に対話や連絡の仕方などで配慮し、必要に応じて他者が気付きにくく静かに話し合いができる場所を確保しており、それらを年度初めの説明会などで周知しています。保護者から連絡帳に記載があれば、園から声をかけて話しやすくして、丁寧に対応し、安心感が持てるように配慮しています。	

36	Ⅲ-1-(4)-③	評価
保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。		b
評価コメント	連絡帳での相談と対面での相談をしています。相談する相手については、内容や保護者の気持ちに配慮して、相談内容に因り専門職や担当職員が対応しています。また行事開催後にアンケートを実施し次回開催の改善につなげるようにしています。さらに毎年1回、保護者アンケートも実施し、利用する保護者側からみた改善すべき点を職員で共有し利用者の満足につながるように取り組んでいます。	

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

37	Ⅲ-1-(5)-①	評価
安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。		b
評価コメント	リスクマネジメントの責任者は、園長と副園長。施設内の安全点検を定期的に行い、不具合ある場合は早急に改善しています。ヒヤリハットの事案は、改善や再発防止に向け、当日中に話し合い、重大な事故の予防に配慮しています。万が一、事故発生した場合でも落ち着いて国道できるよう、事務室に手順書を掲示しています。一大事が起されれば、園児を避難させるルートを確保し、危機を回避するように訓練も定期的に行っています。	

38	Ⅲ-1-(5)-②	評価
感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。		b
評価コメント	感染症予防では、手洗いや消毒を行い、保育者も確認しています。感染症が発生した場合は、どの種類がどのクラスで何人出ているかをSNSでタイムリーに通知したり、玄関前に掲示して送迎者が確認できるようにしています。また感染症マニュアル、衛生管理マニュアルを作成し、だれがどのように行動するか、会議や研修等で確認しています。また保護者の周知については、アンケートで確認するようにしています。	

39	Ⅲ-1-(5)-③	評価
災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。		a
評価コメント	風水害のリスクが高い為、避難確保計画や業務継続計画を作成し、園全体で日常的に取り組むようにしています。また災害発生の際に避難計画やマニュアルを見直し、次の災害に備える取組みに注力することを怠らない姿勢もみられます。また、敷地に隣接して消防と緊密に連携できる体制や地域と協力して行動できる建物があり、園児だけでなく地域住民の安全も確保できるような工夫がしてあります。	

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。

40	Ⅲ-2-(1)-①	評価
保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。		b
評価コメント	全体的な計画から長短期の指導計画に至るにつれ保育目標を具現化して環境や配慮を提供する仕組みとしています。教育目標を定め、年度ごとに重点目標を設定して家庭での生活状況や発達過程を確認する資料を用いて次の見直しを立てるようにしています。主任や園長が取組について確認し、必要に応じて助言をするなど業務が円滑に行われるような仕組みを提供し、目標達成に向け組織的に動くようにしています。	

41	Ⅲ-2-(1)-②	評価
標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。		b
評価コメント	保育の実施方法の見直しは、取組指標から成果指標を導き出し、PDCAサイクルで点検評価分析考察する仕組みとしています。さらに、年度末に保護者アンケート、職員対象の総括的自己評価、父母の役員会にて、円グラフ化して見える化し保育活動だけでなく保護者連携や地域福祉の取り組み状況まで網羅して評価し次年度につなげています。	

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。

42	Ⅲ-2-(2)-①	評価
アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。		b
評価コメント	入園児や年度ごとに家庭での育ちの情報を提供してもらい、保育ニーズの抽出、そして養護や保育に必要な内容を分析して指導計画作成しています。アセスメントを行い、園長が責任者となり担任と対象児童の年齢の責任者や栄養士など関係する保育以外の職種も交えて協議し、作成している。また必要により専門機関から助言をもらい、個別の指導計画を作成しています。今後は計画の作成に誰が関わっているのかを明確にし、それと計画の決定プロセスに至る内容を明確にして、間接的に関わる職員や保護者にわかりやすく説明する体制の整備が望まれます。	

43	Ⅲ-2-(2)-②	評価
定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。		b
評価コメント	指導計画は、年・月・週・日と作成し、子どもの姿を踏まえながら評価し見直しを行っています。評価見直しでは、作成時と同様に、クラス担任から主任などの責任者、園長の順で確認し、担任にフィードバックする仕組みができています。今後は、週や日の指導計画の突然の変更時のルールについて月の計画に沿った内容で行っているかを確認する仕組みの標準化に向けた検討を期待します。	

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。

44	Ⅲ-2-(3)-①	評価
子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。		b
評価コメント	0歳から6歳までの発達のみやすや乳児の運動発達や乳幼児分析的発達検査表など発育発達の専門家が作成した指標や図表を複数取り入れたり専門業者のICTシステムを導入して、個々の発育や発達の状況を確認し次の個別の指導計画や保育計画に反映することでわかりやすく取り組めるようにしてあります。それらの図表やシステムで作成された資料は職員の情報共有の内容とし提供されることで職員間で認識や理解のばらつきが起きないようにしています。	

45	Ⅲ-2-(3)-②	評価
子どもに関する記録の管理体制が確立している。		b
評価コメント	個人情報保護については、記録する項目・内容・媒体、利用の範囲等を書面で説明し同意を得ています。記録の保管、保存、廃棄などは規定通りに処理しているかを確認しており、また記録できる私物を持ち込まないなどの確認も行っています。SNSで公開するような内容については、保護者に説明の機会を設け、職員には情報公開に関する規定を会議や研修で周知しています。また主任や園長が公開の是非を判断する場合があります。	

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成

A①	A-1-(1)-①	評価
保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。		a
評価コメント	保育所の理念の通り、自然の中で「豊かに生きる力」を育てられている様子を、写真や聞き取りから感じ取ることができました。施設長は、園児の意見、スタッフの意見を取り入れながら、去年は「SDGS（エコ）」今年「絵本の中の世界」という保育テーマを掲げ、様々な活動ができるよう工夫されており、先生方もそれを楽しんでおられる様子が印象的でした。	

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

A②	A-1-(2)-①	評価
生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。		a
評価コメント	施設は、日当たりもよく清潔に保たれていました。園庭の遊具を取り替える計画も進められており、より安全に遊ぶ環境を目指しておられました。寝具類の清潔については、保護者の協力も得られているようです。	

A③	A-1-(2)-②	評価
一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。		a
評価コメント	毎日、こども会議を行い、「今日やりたいこと、やってみたいこと」を聞き出すなど、園児ひとりひとりの意見や主体性を大切にされている様子が聞き取りから感じられました。また発達に障害がある子供とスタッフの信頼関係も良好である様子を見聞することができました。	

A④	A-1-(2)-③	評価
子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。		a
評価コメント	子供の行動を見守りながら、排泄や更衣、食事などの基本的な生活習慣が身につくよう、その子が理解できる方法で言葉かけや働きかけをしていました。	

A⑤	A-1-(2)-④	評価
子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。		a
評価コメント	田畑に囲まれた環境で、ウサギや金魚の飼育をしたり、農家さんのご厚意と協力を得て「田植えや稲刈り」「きゅうりやピーマン狩り」等の体験を通して食育されている様子を写真や聞き取りから確認しました。	

A⑥	A-1-(2)-⑤	評価
乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	0歳児が少数であることもあり、保育士等との愛着関係は良好でベビーマッサージなども取り入れ、ゆとりある養育ができていた様子が見聞から確認できました。	

A⑦	A-1-(2)-⑥	評価
3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b
評価コメント	家庭との連携は、送迎時やスマホのアプリなどを通して行っています。3歳未満児の「様々な年齢の子供や保育士以外の大人との関わり」や「探索活動」については、これから充実していきたいとのことでした。	

A⑧	A-1-(2)-⑦	評価
3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	小学校生活がスムーズにスタートできるよう、学習を進めていることを聞き取りから確認しました。さらに希望する者は、スイミングやサッカー、ピアノなどの教室に参加できる環境が整っていました。	

A⑨	A-1-(2)-⑧	評価
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b
評価コメント	看護職の配置はありませんが、発達支援センター等の関係機関からの助言や家族面談を定期的に行いながら、養育されてきました。身体障がいのある児は0歳児から登園しており、子供たちの心のバリアフリーも整えられていることを見聞できました。気になる子ども（発達障害等の精神障がい等の児）も把握されており、スタッフ間で情報を共有してとのことでした。今後、看護、リハビリ、心理などの専門職との連携を強化し、「多職種協働での保育」を展開されることを期待します。	

A⑩	A-1-(2)-⑨	評価
それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	朝7時から8時半までは合同保育を行っており、健康状態等の引継ぎを適切に行うように心がけておられることを聞き取りから確認しました。	

A⑪	A-1-(2)-⑩	評価
小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。		a
評価コメント	年長の子供と保護者が入学後のイメージがつかめるよう「1年生との交流会」や校内見学に参加しています。また、毎月、園だよりやドキュメンテーションを小学校へ持参し、園での取り組みを伝えるなどの取り組みを行う等、事前の連携を図られています。	

A-1-(3) 健康管理

A⑫	A-1-(3)-①	評価
子どもの健康管理を適切に行っている。		b
評価コメント	年度初めに、既往歴や予防接種についての情報は把握されていますが、年度途中での予防接種についての把握が完全ではないことに気づかれています。この点について、保護者からの情報収集について再検討されることを望みます。	

A⑬	A-1-(3)-②	評価
健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		a
評価コメント	内科検診年2回、歯科検診1回実施され、歯磨きやフッ素塗布や、絵本や保健所からの指導が計画されています。	

A⑭	A-1-(3)-③	評価
アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。		a
評価コメント	アレルギーや慢性疾患等のある子どもについて、年度始めに保護者を通して、医師からの指示を受けていることを書面から確認しました。アレルギー除去食は、食札や食器、座席等の工夫をして、スタッフ間でのダブルチェックや食事中的見守りを強化する等、間違えて摂取しないように気をつけていることを聞き取りから確認しました。	

A-1-(4) 食事

A⑮	A-1-(4)-①	評価
食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		a
評価コメント	冷凍食品は使わず、国産の食材や麦ごはんを提供するなど、食に力を入れておられるとのことでした。食育の一環として園の畑で野菜を栽培して給食で使用したり、子供たちが調理をする際には、材料をスーパーで購入する機会を提供するなどの工夫をされています。	

A⑯	A-1-(4)-②	評価
子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。		a
評価コメント	3歳未満児は麦ごはんを園で準備しますが、3歳以上児は食べきれる量のご飯を持参しています。管理栄養士や調理スタッフは、カウプ指数を把握し、園児が楽しんで完食できるよう、味付けや見た目の工夫をされていることを見聞から確認できました。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携

A⑰	A-2-(1)-①	評価
子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。		a
評価コメント	職員のチームワーク、手書きの帳面、連絡アプリ、送迎時などを通して、保護者と情報共有をされていることを確認しました。	

A-2-(2) 保護者等の支援

A⑱	A-2-(2)-①	評価
保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。		a
評価コメント	施設長やスタッフの保育に対する熱意とチームワークがしっかり根づいており、相談しやすい雰囲気があることを聞き取りや保護者アンケートから確認できました。	

A⑱	A-2-(2)-②	評価
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		a
評価コメント	送迎時には、園児だけでなく保護者の様子も観察し、疲れや悩みがある様子がうかがえた時には、園長に報告し、相談しやすい雰囲気を作るように心がけておられることを聞き取りから確認しました。	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

A⑳	A-3-(1)-①	評価
保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		b
評価コメント	キャリアアップシートが作成され、専門性の向上に努められていることが確認できました。保育士等の自己評価は毎年2月に計画されていますが、その結果の集計や課題分析の書面を確認することができませんでした。今後、保育士等の個人課題、園全体の課題をスタッフ全員で分析する等、学びあえるの環境を整えられていかれることを期待します。	